

05 / 27 - 06 / 02

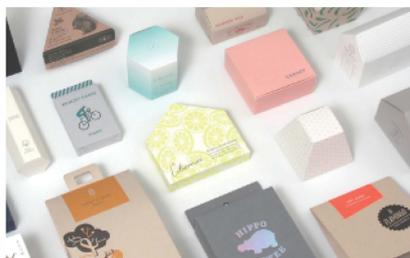
大阪ヘルスケアパビリオン
「リボンチャレンジ」



活版印刷の12色刷り
百年継承してきた
人の技を次代へつなぐ

紙を使ったコミュニケーションツールでブランド力向上をお手伝い

1918年に「杉浦封筒工業所」として封筒やのし袋、荷札などの製造で創業した株式会社羽車（ハグルマ）。100年の歴史を越えて、今日では「紙を使った温かみのあるコミュニケーションの創出」を目指しています。掲げる事業目的の一つに「お客様のブランド力を高め、その良さを世の中に伝えるお手伝い」とあり、封筒ばかりでなく、パッケージや冊子など、顧客のブランド構築の一端を担う紙製品の企画・デザインから製造まで行っているほか、自社製品も幅広く展開しています。その商品開発において大切にしているのは「紙素材の良さを活かす」「伝統的な印刷と加工を大切に」「デザインも作り方もシンプルに」の3つの考えです。



企業ブランドを伝える質感のよい紙製品

活版印刷の12版を重ねる多色刷りに挑戦

大阪・関西万博で出展するのは、多色の活版印刷を用いたアート作品です。活版印刷とは、凸の版を使って印刷する技法で、一般的な印刷と異なって表面に凹凸があり、紙素材のやわらかさも実感できます。同社では2006年にドイツのハイデルベルグ社の活版印刷機を導入。機械で連続生産するものの、圧の強さなどの全ての調節をダイヤル一つで行う職人技が生きています。まるで手作業で一枚一枚印刷したようなアナログ感が温かみのある表情を作り出します。

今回の出展では、1色ずつ調色したインクで12版を重ねる多色刷りに挑戦。デジタル技術により向上したデザインの再現性と、職人技の融合を訴求します。



豊かな色合いや凹凸のある手触りが魅力

丁寧なものづくりと紙がもつ表現力をあらためてアピール

12版の多色刷りによって表現されるのは、日本で古来愛されてきた幸運・良縁・お守りを象徴するモチーフで、72種類のカードを壁一面に展示します。活版印刷という古い技術を昇華させた形で展示することでペーパーレスが叫ばれる今日にあって、「紙」でなければならぬ価値というものを今後も大切に伝え続けていきたいという思いがあります。あわせて、ものづくりの丁寧な工程や、そこに込められた良いものを作ろうという想いを、作品と制作風景から感じてもらいたいと考えています。



約60年前に製造された大型の活版印刷機

企業概要

所在地 〒599-8101
堺市東区八下町3-50
TEL 072-251-2211
設立年 1936年
資本金 5,200万円
従業員 160名

公式サイト

さかしる



万博を機会に未来の紙製品のあり方の再創造へ



代表取締役

杉浦 正樹 さん

将来の方向を示す万博という機会に、新たな技術や表現に挑戦し、私たちのものづくりと製品をたくさんの方に見ていただきたいと思い、出展を決めました。同時に、私たちの会社や取組についても知っていただくことで、社員の家族やお取引先にも喜んでいただけるのではないかと考えました。

多くの方が、新しい技術や新しい考え方に触れることで、より良い未来が作られるものだと思います。それが、関西の地から発信されることはとても誇りに思います。私たちがこの機会に、未来の紙製品のあり方を再創造したいと思っています。

事業内容

封筒・紙製品の企画・製造・販売
インターネットによる通信販売

主な取引先（納入先）

官公庁、一般企業、印刷会社
デザイン会社、小売店

主な製品・サービス等

封筒・カード・箱・冊子・パッケージ
などの紙製品、別注品（オリジナルオーダー）の製造販売